

第194回鶴見川舟運復活プロジェクト定例会

日時：令和6年6月22日（土）18時から

場所：新羽地域ケアプラザ4F

経過

5月28日、代掻きをしました。参加者3名。いよいよ田植えです。

5月30日、大谷会長が薬剤散布、これで後々草刈りが楽になります。

6月1日、田植えをしました！ アンケート結果参照のこと

一般参加者84名（子ども44名、大人40名）＋スタッフ関係者20名

6月3日、大谷会長宅に長谷川相談役を迎えて、横浜ミストリーの撮影。

本日の予定

議題 ① 6月23日、第10回港北区民俗芸能のつどいについて

② 田の草取りの日程について ⇒**メーリングリストで連絡します**

③ その他、連絡事項など

**①9月28日稲刈り、10月7・10・11日辺りで「和船の漕ぎ手研修会」
をしたいので、スタジアムと協議する**

②6月29日青葉台駅で佐藤世話役のハマ建イベント

話題提供 「大山信仰と鶴見川流域の生活」（平井誠二）

次回の日程

その後は8月24日、9月21日です

（第195回）令和6年7月20日（土）18時から

場所：新羽地域ケアプラザ4F

6月5日の『タウンニュース』

6月1日の田植えと6月13日の『タウンニュース』



オールを漕ぐ参加者ら＝提供写真

鶴見川舟運復活プロジェクト（大谷佐一会長）は5月18日、港北ふるさとテレビ局と合同で昔の舟運の検証実験を実施した。鶴見川に手作り舟を2艘浮かべ、潮汐に合わせて行われた。

鶴見川で舟運の実証実験 潮汐利用し遡上

鶴見川中流域は、縄文時代には海の湾が入り組んだ地形で、昔から潮汐を利用して舟で荷運びや交流が行われていたという。1500年頃、西方寺（新羽）は極楽寺鎌倉から舟運で移設された記録が残されている。検証実験は2008年に新羽橋と生麦干潟、15年に新羽橋と鶴見川漕艇場で行われ、今回は3回目。26人の参加者は、太尾河岸下流から鳥山川合流地点の間をここまで遡上できるかを検証した。大谷会長は「昔やってたことを試して、参加者も楽しんでた。通るかかった人も興味深く見てくれて手を振る人も」と嬉しそうに話した。



懸命に稲苗を植える子どもたち

泥んこになって食育学ぶ
新横浜公園 水田に子どもたち
米作りや自然観察を通して、自然を学ぶ機会を提供している鶴見川舟運復活プロジェクト（大谷佐一会長）は5月1日、新横浜公園の水田で実験した。当日は天候にも恵まれ、雨空の下、大勢の親子連れが参加。子どもたちは泥んこになり、稲苗を植える楽しさを体験した。大谷会長は「田んぼに入るのことが、なかなかできない体質。家族で楽しんできてよかった」と話した。



6月3日横浜ミストリーの撮影